

Press Release

2010年3月17日
王子ネピア株式会社

「nepia 千のトイレプロジェクト」 2009年度寄付金贈呈および活動結果ご報告

王子ネピア株式会社（本社：東京都中央区銀座、社長：林 孝治）は、ネピア商品の売り上げの一部で、ユニセフ（国際連合児童基金）の東ティモールにおける「水と衛生に関する支援活動」をサポートし、子どもたちの命と健康を守る「nepia 千のトイレプロジェクト」を展開しております。

2009年9月1日～12月31日までのキャンペーン期間中、多くのお客様にネピア商品を選んでいただき、寄付金額は目標を大きく上回る、24,413,914円となりました。

寄付金は、2010年3月8日、ユニセフ東ティモール事務所の久木田代表、日本ユニセフ協会の早水専務理事へ、弊社社長林より贈呈させていただきました。

【贈呈式】



左から林、早水専務理事、久木田代表

現地では、2009年4月に先行寄付した資金（1,000万円）を元に、活動は実施されており、すでに、リキサ県に120、アイレウ県に426の家庭用トイレが建設されました（2010年3月現在）。残りの家庭用トイレと給水設備も備えた5校の学校用トイレは、最終の支援金をもとに、2010年9月の完成を目標に、4月から建設が開始される予定です。現地ではトイレ建設と合わせ、衛生習慣の普及・定着のための啓蒙活動やコミュニケーション活動も、現在、幅広く実施されています。

弊社では、社会にあるさまざまな課題に対する取り組みとして、2007年から、日本の子どもたちにうんちを通じて健康について学んでいただく「うんち教室」を、2008年から、「nepia 千のトイレプロジェクト」を実施して参りましたが、企業による社会貢献活動の重要性が高まっている現状を受け、さらに、全社一丸となって取り組むため、3月8日の贈呈式のあとは、～当社の社会貢献活動のこれまでとこれから～と題し、これまでの活動を振り返ると共に、今後の取り組み姿勢などを共有する、社内報告会を実施致しました。

報告会では、早水専務理事から、ユニセフの活動を企業との連携の視点でご説明いただき、久木田代表からは、東ティモールでのユニセフの活動内容についてご説明、ご報告いただきました。

特に、弊社が支援している「水と衛生に関する支援活動」については、まだまだトイレや給水設備が不足していることや、「nepia 千のトイレプロジェクト」の支援で衛生環境が整ったエリアでは、子どもたちの健康状態に改善がみられていることなどをご報告いただきました。また、本プロジェクトについて、東ティモール政府からも、高い評価をいただいていることなども、合わせてご報告いただきました。

早水専務理事、久木田代表のご報告を受け、本プロジェクトによる支援の成果が、現地で形となり、東ティモールの子どもたちの健康や生活の改善に大きな貢献を果たしていることを、改めて強く実感することができました。

弊社では、今後も日本のお客様の想いととも、全社一丸となって社会貢献活動に取り組み、継続してまいります。

【報告会】



久木田代表



早水専務理事

- ◇ 「nepia 千のトイレプロジェクト」ウェブサイト (<http://1000toilets.com>) でも、今後、現地のトイレ作りの様子を詳しくお知らせしていく予定です。